

# シンポジウム「モバイル'11」原稿執筆の手引き

○神戸 学, 神戸 文子  
港島大学理工学部

## Friendly Guidelines to Complete Papers to Symposium Mobile'11

○Manabu KOBE, Fumiko KANBE  
Faculty of Science and Technology, Port Island University

**Abstract:** The mobile phone and related services are effecting wide and quick changes to business, social and home communication. Car navigation devices and ITS (Intelligent Transport Systems) are expected to enhance safe and enjoyable driving. Great efforts have been devoted to minimize ill effects of EMI, etc., while ensuring sufficient usability. Such mobile multimedia devices have to be carefully studied not only from user's point of views but also from that of nonusers and users out of use. Social inconvenience caused by noisy call signals or talking voice, and threat to safety drive become important points of discussion. In the mobile multimedia ages, users and nonusers, driver and fellow passengers are going to share an environment. Social coordination to ensure better use of the media has to be pursuit beyond usability.

The symposium is to discuss universal, international coordination of technology and culture in mobile information ages. Proposal from manufacturer, service providers, and customers and scientists are welcome.

Research and case reports, demonstrations will be included in presentation. Symposium language is Japanese, but English session will be organized for non-Japanese presenters.

**Keywords:** keyword1, keyword2, keyword3, keyword4 and keyword5

**キーワード:** キーワード 1, キーワード 2, キーワード 3, キーワード 4, キーワード 5

### 1. はじめに

モバイル学会では、移動を伴う情報・通信に関連する技術研究や応用開発、これに関連する個人の利用行動・社会活動・サービス等の事業展開についての実践報告、課題解析など、本学会の主旨に沿った幅広い研究、報告、事例、あるいは提案に関わる論文を広く募集します。

シンポジウム論文集は、A4版で著者が自ら作成した原稿に対し白黒オフセット印刷にて複製します。

### 2. 同時投稿について

シンポジウムへの発表申込時に、「モバイル学会誌」へも論文投稿を申し込むことができます。この場合、シンポジウム発表用の論文原稿が学会誌への投稿原稿となります。発表申込の際に、「同時投稿を希望する」を選択する必要があります。

### 3. 執筆要項

論文形式の原稿は、以下の執筆要項に従って作成し、投稿して下さい。「モバイル学会誌」への同時投稿の場合もこれ

2011年3月10日, 11日 シンポジウム「モバイル'11」にて発表

著者照会先: 〒650-9999 神戸市中央区港島中町 3-14-1 港島大学理工学部 神戸 学

Email: manabu@mobilergo.com (Email アドレスの記載は任意)

に準じます。文書作成や図・グラフ作成において、過剰な装飾が暗黙のうちに選択され、事務局での編集作業が複雑になりつつあります。この執筆要項に合わせる事が困難な方は、事務局にご相談下さい。

#### 3.1 ページ設定・規定頁数

印刷用紙はA4版白紙とし、余白は上下25mm、左右20mm、論文の規定頁数は2~6枚(偶数頁)とする。審査の原稿の各頁のフッター中央部に頁番号(Arial 11pt)を1から始めて記入すること(この数字は編集・製版時に、事務局で貼り替える)。また、奇数頁のフッター右部に発表者名を和文で、偶数頁のフッター左部に英文にて記載すること。他の各頁のヘッダー/フッターの項目は本執筆要項のものをそのまま設定すること。

#### 3.2 タイトル部

- 和文論題(ゴシック, 18ポイント(pt), 中央揃)
- 和文著者氏名(P 明朝など, 12pt)
- 和文所属(P 明朝など, 10pt)
- 英文論題(Arial など, 14pt, 中央揃)
- 英文著者氏名(Times New Roman など, 12pt, 中央揃)
- 英文所属(Times New Roman など, 11pt, 中央揃)
- Abstract (up to 200 words, 9pt, 左揃)
- English keywords (up to five, 9pt, 左揃)
- 和文キーワード(5個, 9pt, 左揃)

以上は1段組みとする。著者名、著者所属については、少人数の場合と多人数で所属も複雑な場合があるので、3頁の表記例を参考に、それぞれ適切な方式を選択すること。外国人が含まれている場合、音読を助けるためにもローマ字表記をつける。連名者がいる場合、発表者には、和文氏名の左側に○を付ける。Abstractは省略可であるが、「モバイル学会誌」への同時投稿の場合には必須とする。

### 3.3 本文

本文は2段組みで作成し、文字はP明朝を原則とする。文字サイズは9ポイント(pt)、行間15pt、但し、段幅を越えた図表を組み込み、あるいは2段通しの図表を入れることを排除するものではなく、図や表の見やすさ、複雑さを考慮して選択する。章の番号、タイトルは10pt、ゴシック体、センタリングとする。英数字にはピッチ可変(proportional font)の字体を勧める。和文にもピッチ可変フォント(MSP明朝、MSPゴシックなど)を使うと良い仕上がりが期待される。規則や規格などフォーマルな文面ではMS明朝、或いはMSゴシックなど固定ピッチ文字が適している。

和文の強調箇所には、ゴシック字体を用いる。太字、Boldを使うと文字がつぶれて、読みにくい場合がある。

### 3.4 図表の記入

図、表にはタイトル(明朝、9pt、センタリング)を付ける。和文、英文の両方のタイトルを付けてもよい。図、表の番号は、それぞれ、図1、図2、…、Fig. 1、Fig. 2、…、表1、表2、…、Table 1、Table 2、…のように通し番号とする。単純な表では、必ずしもすべての罫線が必要ではなく、また複雑な表では罫線に太さや濃淡を付けるなどデータの識別性に配慮すること。

### 3.5 参考文献など

本文に続いて、(謝辞、)参考文献を配置する。(括弧)で示すものは、頁に余裕がある場合に、必要に応じて加える。

#### (1) 引用

本文中での参考文献の引用は、引用箇所[1]、[2]、[4-6]などと付ける。

#### (2) 文献の記載

参考文献は以下のような順序で本文の末尾にまとめる。

##### ・雑誌の場合[1]

著者名、題目、雑誌名(略記にて可)、巻(太字)、号、頁、発行西暦年

##### ・書籍の場合[2]

著者(または編者)名、書名(編者)、発行所、頁、発行西暦年

なお、著者(または編者)名の後はコロン「:」、題目そのほかの区切りはカンマ「,」とし、発行西暦年は小括弧「( )」で囲む。

著者(または編者)名は、和文の場合[4]、姓のみ列記し、カ

ンマ「,」で区切る。著者が多い場合には、代表的な著者名を記載し、その他の著者名を「他」で省略することができる。英文の場合[5]には、「姓、名のイニシャル」を列記し、カンマ「,」で区切る。著者が多い場合には、和文の場合と同様に「et al.」で省略することができる。(記載例)

### 参考文献

- [1] 著者: 題目, 雑誌名, vol. 3 (号), pp.1-10 (2001).
- [2] 著者: 題目, 編集者, 書籍名, 巻, pp.1-10, 出版社 (2000).
- [3] 著者: 書籍名, pp. 1-10, 出版社 (1999).
- [4] 前川, 能瀬, 赤松: 次世代移動情報のヒューマンインタフェース、カーナビ・携帯電話の利用性と人間工学, pp. 177-184, 日本人間工学会関西支部 (2000)
- [5] Farley, W. and Smith, R.N.: Mobile Interactions in Agriculture, Human Computer Interaction, vol. 3, pp. 112-120 (2001)

### 4. 提出書類

モバイル学会事務局宛 (mobile11@mobilergo.com) に、1. オリジナル原稿および 2. Word のデータファイルを電子メールの添付ファイルとして提出してください。3. 著作権譲渡書は署名、署名日を記入して FAX または郵便にてモバイル学会事務局へお送りください。原稿の頁番号等の書式調整を事務局でおこないます。

1. オリジナル原稿 (PDF ファイル)
2. Word のデータファイル (Word 97-2003 文書形式ファイル: \*.doc)
3. 著作権譲渡書
4. 投稿票

「モバイル学会誌」への同時投稿の場合は、4. 投稿票も電子メールにて提出してください。

著作権譲渡書は不正コピーなどが発見された場合に学会として対抗するためのもので、原著者が同著作物を再利用することに異議を申し述べることはありません。複数執筆者による著作物の場合、その内の一人が代表執筆者となって署名してください。

**原稿締切日は2011年1月31日(月)必着です。**

〆切日に遅れた原稿は論文集に掲載できなくなります。この場合、当日に配布する資料のご用意を執筆者側にお願ひします。

(2010年12月23日版)

## 5. 問い合わせ先

提出書類や執筆要項に関するご質問・ご相談は、右記までお問い合わせください。

〒654-8585  
神戸市須磨区東須磨青山 2-1  
神戸女子大学 家政学部 大森研究室内  
特定非営利活動法人モバイル学会 事務局  
Phone & Fax: 078-737-2349  
E-mail:  
原稿送付先: mobile11@mobilergo.com  
問い合わせ先: mgo@mobilergo.com

## 付録 タイトル、執筆者、所属の表記法

方式 1 : ○名前 p (所属 a), 名前 q (所属 b)

## NIRS 軌道からみた手・指動作と脳活動

○田上 博(田村ヒューマンインタフェース研究所)  
大岡 正子(神戸総合大学)

方式 2 : ○名前 p, 名前 q, 名前 r  
(所属)

## 携帯電話の遠隔医療応用における標準化への問題点

○木暮 央樹, 松岡 祐一, 芥川 陽介, 木内 正武  
(徳育大学工学部 医用電子工学科)

方式 3 : ○名前 p 名前 q 名前 r  
所属 a 所属 b 所属 c

## 視覚提示条件の相違による NIRS 軌道の変化についての考察

○大岡 正子, 長谷川 和宏  
神戸総合大学 国際文理大学

方式 4 : ○名前 p<sup>1)</sup>, 名前 q<sup>2)</sup>, 名前 r<sup>1)</sup>, 名前 s<sup>3)</sup>, 名前 t<sup>1)</sup>  
<sup>1)</sup>所属 a, <sup>2)</sup>所属 b, <sup>3)</sup>所属 c

## ケータイ画面上の文字の視認性評価方法およびその実践

○John SPENSER<sup>1) 2)</sup>, REN Kun-Pyo<sup>2)</sup>, リャン ケンキ<sup>3)</sup>, 張 銳<sup>4)</sup>, OH Gi-Dong<sup>5)</sup>  
<sup>1)</sup>国際文理大学情報学部 <sup>2)</sup>KAIST <sup>3)</sup>神戸国際大学家政学部  
<sup>4)</sup>(株)アジアテレコム <sup>5)</sup>名古屋モバイルセンター

\* 外国人の氏名については、姓と名が判別できるような工夫が望ましい。